

地域から子育てを変える

新しい子育て支援について厚生労働副大臣 小宮山洋子さんにお話を伺いました。



厚生労働副大臣 小宮山洋子さん

私、本目さよは、これまでの企業の人事の仕事をとおして、「仕事と子育てが当たり前に両立できる」会社を目指して働いてきましたが、さらに社会全体での取り組みとなるように地域から変えていくことにしました。

今日は、国政の場で、子ども・子育て支援の取り組みを政府の中心となり実施している厚生労働副大臣 小宮山洋子さんにお話を伺いました。

子ども・子育て新システムとは？

これまでは、子ども・子育てに関する政策・財源が担当省ごとに分かれていたもの（※）を、一元化し、すべての子ども・子育て家庭に必要な良質のサービスを提供する制度改革案です。 ※幼稚園などは文部科学省、保育園・放課後児童対策などは厚生労働省

● 子ども・子育て新システム



本目：政府や地方自治体が連携し、一元的にサービスを提供することで、サービスを受ける側からすれば、手続きなど利便性の向上にもつながりますね。

待機児童の解消に向けて

本目：日本全体で、「保育園の待機児童」は年々増加傾向にあります。台東区においても約50名の待機児童がおり、潜在的な待機児童数は、この数倍にのぼると言われています。

小宮山：非常に深刻な問題です。保育園の待機児童が増える一方で、幼稚園は3割空きがあるという現状なので、新システムでは、幼稚園・保育園を一体化し、それぞれのよいところを活かした「こども園」(仮称)を作り、施設の量的な拡大を図ります。また、施設の数を増やすために民間企業やNPOなど多様な事業主体が参入できるようにし、質を確保するための客観的な最低基準を適応した施設については、認可の有無にかかわらず財政措置の対象とします。

本目：なるほど。多様な企業やNPOが参入することで、子ども・子育てに関する市場が活性化し、保育サービスの量と質の両面の向上が図られるということですね。私は、空きマンションなどの一室を使用して、少人数の保育を行なう「おうち保育園」の普及・拡大を政策の一つとして掲げています。「おうち保育園」は、通常の認可保育園と比べて、格段に少ない初期投資で済むなど、保育環境の充実のためには非常に効果があると考えています。

小宮山：「おうち保育園」のような小規模な保育では、集団保育と比べて、より家庭的な保育が受けられそうですね。やはり、当事者である子どもや親から見て何が必要か、という視点で、多様なサービスが受けられる土台を政治がつくっていかなくてはいけないと思います。

質の高い幼児教育・保育の一体的提供



待機児童ゼロ
+
働き方に合わせて
選べる質の高い教育・
保育サービスを！



子ども・子育て新システムとは

本目：私は、「子育てが辛い社会を終わらせる」ことを目指し、区政にチャレンジすることを決意しました。現在、厚生労働副大臣として子育てを支援する各種政策を政府の中心となり策定していらっしゃる小宮山さんに「子ども・子育て新システム」の概要について教えていただきたいと思っています。

小宮山：今、子どもを持ちたくても、持てない人が増えています。こうした人たちのために、すべての子どもたちへの質の高い教育・保育環境を保障し、子ども・子育てを社会全体で支援していくために、制度・財源含めてトータルで見直しを行なおうとしているのが、「子ども・子育て新システム」(以下、新システム)です。

本目：子ども・子育てをめぐる政策は多くありますが、新システムではこれまでの政策とどう違うのでしょうか？

小宮山：下図のように新システムは、政府の推進体制や財源を一元化し、包括的な制度となるよう設計しています。また、子ども・子育て支援のサービスや給付についても、子ども・子育てをする方々の様々なニーズをふまえ、これまで以上に多様なサービスが利用できるように充実を図っています。妊娠から出産、育児、保育サービスの利用、放課後対策まで、子どもを持つ家庭それぞれのライフステージにあわせて、切れ目のない細やかなサービスを提供できるようにします。

本目さよと笑顔をつくる会 〒110-0001 台東区谷中1-5-11 E-mail: hommesayoinfo@gmail.com

TEL 03-5815-5060 FAX 03-3821-1078 http://www.sayohomme.com 本目さよ